

神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
						1 ×
2 ×	3 ×	4 ×	5 ×	6 ×	7 ×	8 ×
	京都ミュージアムロード ← 1/22 ~ 3/16				企画展関連講演会 ※キャンパスプラザ 京都にて開催 15:00-16:30	
9 ×	10 ×	11 ×	12 ×	13 ×	14 ×	15 企画展 「西村製作所と 中村要」 (3/15~6/20)
	京都ミュージアムロード 1/22 ~ 3/16				企画展関連講演会 14:00-15:30	
16 ×	17 企画展	18 企画展	19 企画展	20 ×	21 企画展	22 企画展
				春分の日		卒業式特別開館 10:00 ~ 16:00
23 卒業式特別開館 10:00 ~ 16:00	24 企画展	25 企画展	26 企画展	27 企画展	28 企画展	29 オープンキャンパス 10:00 ~ 15:00
30	31					

施設見学 9:00 ~ 16:00
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30 ~ 20:00

天体観望会 19:00 ~ 21:00
(定員あり / 要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階展示フロアでは企画展「西村製作所と中村要〜反射望遠鏡にかけた夢〜 (3/15 ~)」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。
(展示替えのため 3/1 ~ 14 は休館)

天体観望会

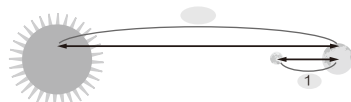
荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。
(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問

観望会などでよく聞かれる
質問にお答えします★

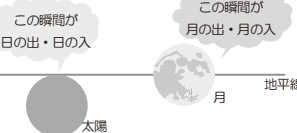
① 太陽と月はどちらが大きいの？

地上から見ると、太陽と月は、ほとんど同じ大きさに見えます。でも、本当の大きさはぜんぜんちがいます。太陽の大きさは、月のおよそ400倍です。ところが、太陽から地球までの距離は、月から地球までの距離のおよそ400倍あります。ぐうぜん、月の400倍大きい太陽が、400倍遠いところにあるので、同じ大きさに見えるのですね。
また、地球から見ると、太陽の通り道と月の通り道は少しずれているのですが、太陽-月-地球が一直線に並び、日食が起こります。太陽が月にすっぽり隠される「皆既日食」は、非常に狭い地域でしか見られません。次に日本で皆既日食が見られるのは、2035年9月2日、北陸から関東にかけてです。



② 日の出や日の入りの時刻ってどのように決められているの？

「太陽の上辺が地平線と同じになったとき」が、日の出・日の入りの時刻と決められています。太陽が地平線から顔を出し始めた瞬間が日の出、太陽が地平線にしずみきって見えなくなった瞬間が日の入りとなります。また、月の出・月の入りは「月の中心が地平線と同じになったとき」となっています。月は形が毎日変わるので、太陽とは基準がちがいます。



企画展

西村製作所と中村要 〜反射望遠鏡にかけた夢〜

3月15日(土) ~ 6月20日(金) 開催!

本学には、国内私立大学最大の「反射望遠鏡」である荒木望遠鏡が設置されています。そこで、「反射望遠鏡」の歴史を遡ってみると、アマチュア天文家たちの「夢」が垣間見えてきました。本企画展では、2026年で100周年を迎える国産近代反射望遠鏡の歴史を取り上げ、どのようにして国産の近代的反射望遠鏡が作られたのか、人と人とのつながりや当時の技術者たちの天文学や望遠鏡に対する情熱が形になるまでの軌跡を紹介します。

また、企画展関連講演会が3月は以下の日程で開催されます。

★3月 8日(土)15時~ 講師: 渡部潤一氏 会場: キャンパスプラザ京都

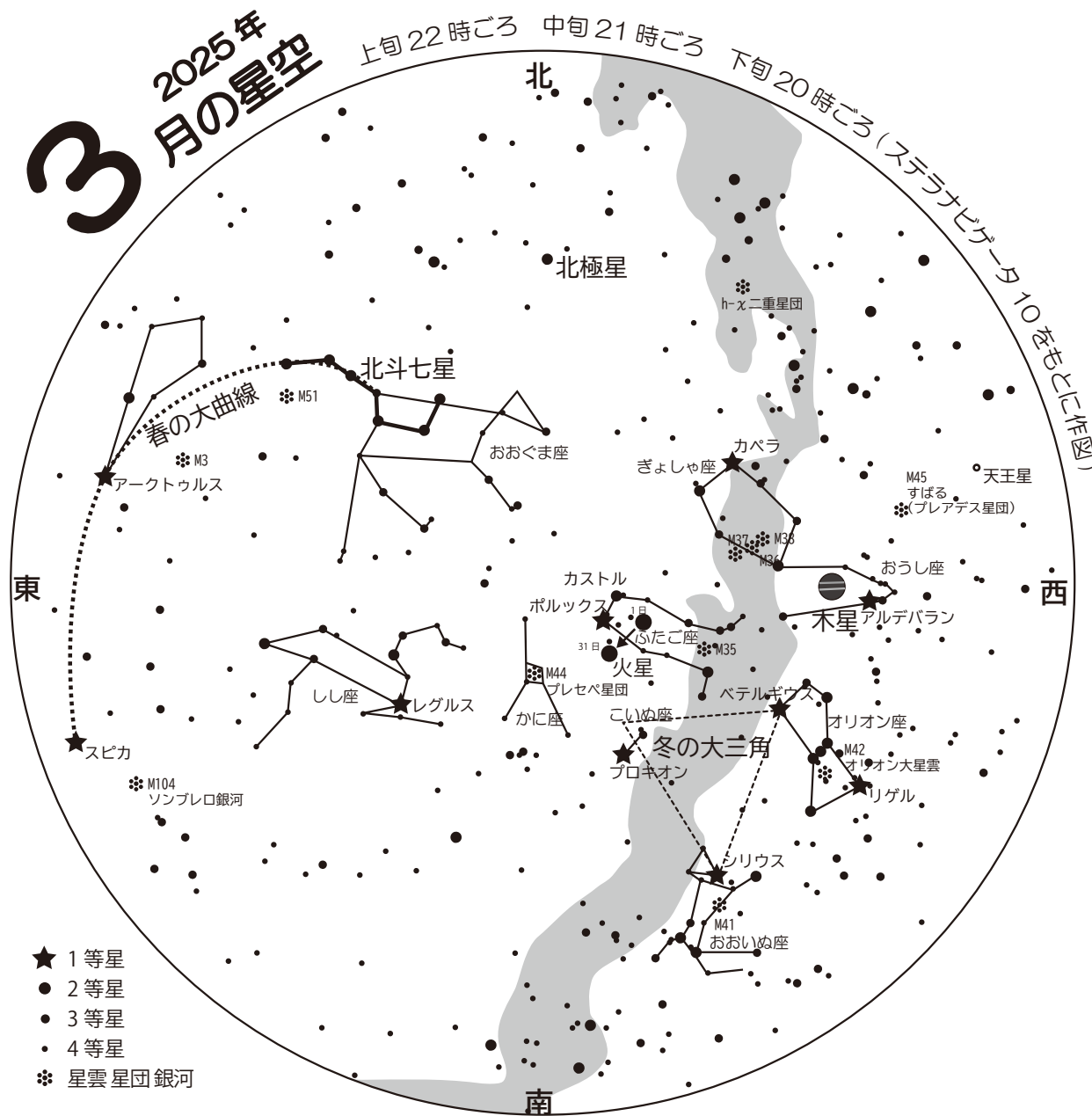
★3月 15日(土)14時~ 講師: 富田良雄氏 会場: 神山天文台

両講演会ともに予約制となっておりますので、詳しくは神山天文台のホームページをご覧ください。



15cm 反射望遠鏡台
(大阪市立科学館所蔵)

2025年3月 見ごろの天体



3月20日 春分の日

祝日となっている「春分の日」。年によって3月20日だったり、21日だったり…。春分の日と秋分の日とは国立天文台の暦計算によって定められています。「春分」とは、太陽の通り道と天の赤道が交わる点（春分点）を、太陽が南から北に通過する瞬間を言います。私たちの暮らしの中では、「太陽が真東から上って真西に沈む日」ですが、「昼と夜が同じ長さの日」ではありません。

★火星（かせい）：Mars

太陽系の惑星で地球の1つ外側を公転する火星は、地球の1/2程度の小さな惑星です。2年2か月ごとの接近のタイミング（2025年は1月12日最接近）で観察の好機を迎えています。望遠鏡を使うと、ドライアイスの氷である「極冠（きょっかん）」や大チルシスなどの模様も見ることができますが、見え方は火星の季節や天気（ダストストームなどでぼやけてしまう可能性もあります）にも大きく影響されます。

★赤色巨星（せきしょくきょせい）：Red giant

恒星は安定して輝く時期が長く続きますが、恒星の内部の水素を使い果たすと恒星の内部が縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。オリオン座のベテルギウスは赤色超巨星で、直径は太陽の約650倍も大きいことが観測されています。恒星の寿命が尽きようとしていて、いつ超新星爆発を起こしてもおかしくありません。

★散開星団（さんかいせいだん）：Open cluster

ぎょしゃ座のM36、M37、M38、おおいぬ座M41、かに座のM44（プレセペ星団）などが見ごろです。少しずつ集まり方の異なるぎょしゃ座の3つの星団も比べてみましょう。恒星は、ガスの濃いところで集団で生まれ、若い星たちが集まった散開星団となります。やがて、散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。

★散光星雲（さんこうせいうん）：Diffuse nebula

西に沈みゆくオリオン座の三つ星のすぐ南に並ぶ小三つ星のうち、真ん中の天体は星ではなく散光星雲M42で、この中で今も次々と星が生まれています。望遠鏡を覗くと、星雲のガスと、生まれてから約150万年しか経っていない赤ちゃん星が台形の形に4個並んでいるトラペジウムが見えます。明るく輝く生まれたての星々の光が周囲のガスを照らして温めることによって、オリオン大星雲は輝いています。